

学校概要

創立 37 周年	学校長 鈴木 均	副校長 木村 徳篤	学期 2 学期制	児童・生徒数 679 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 2		主な関係校: あざみ野第一小 あざみ野第二小 荇子田小 黒須田小		

学校教育目標

- 確かな学力と学ぶ意欲をもって、主体的に生きる子どもを育てます。【しっかり学び、しっかり伸ばそう】(知)
- お互いに認め合い、思いやりをもって責任ある行動をする子どもを育てます。【豊かな心と責任感をもちよう】(徳)
- 健やかな体を育み、自他の生命を尊重する子どもを育てます。【たくましい心と体をつくろう】(体)
- 社会の中で自分を活かし、みんなで生きる子どもを育てます。【社会の一員としての自覚をもちよう】(公・開)

学校の特徴

- 学区のほとんどは落ち着いた住宅街で、学校への協力も厚い。保護者・地域の関心が高く、協力的である。
- 保護者やOBによる「あざみ野サポート(花壇・図書・おやじボランティア)」は参加人数も増え活動が盛んになっている。
- 比較的経験の浅い職員が多いが、活気のある職員集団である。
- 学習状況調査等の結果は良好であり、学力の安定している生徒が多い。
- 地域行事へのボランティア等へ積極的に参加する生徒はいるが、その輪を広げる方策を考えたい。
- 部活動の参加状況は良好であるが、生活全般において怪我が多い。校内での安全に対する意識の向上を目指したい。

学校経営中期取組目標

- 「チームあざみ野」として全職員で「共有」「共感」「協働」を合言葉に魅力ある学校(「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校)づくりを目指します。
- ・生徒を理解し、認め、励まし、一人ひとりを伸ばす教育を行います。
- ・個に応じた指導を充実するとともに、「分かる授業」「魅力ある授業」の実践を目指します。
- ・挨拶の励行によって、お互いに認め合う人間関係、思いやりのある心を育てます。
- ・地域とのコミュニケーションを通して、信頼関係を深めていきます。

小中一貫教育の取組

あざみ野中・すすき野 ブロック : あざみ野第一小 あざみ野第二小 荇子田小 黒須田小 嶮山小 すすき野小 すすき野中

9年間で育てる子ども像	人とのつながりを大切にする子 ～地域を愛し、挨拶できる子～
自校の具体的取組	「手をつなごう・肩を組もう」～小中職員・児童生徒の交流と連携の推進～ ・生徒会説明会や部活動見学を実施したり、吹奏楽部や合唱部が小学校の行事に参加する。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	自ら目的意識をもって主体的に学習に取り組む生徒を育成する。そして基礎基本の定着を図るとともに「魅力ある授業」を目指し、授業改善に努める。	各教科で指導主事を招いた研究授業・研究協議等を引き続き行い、生徒が「分かる授業」づくりを目指す。また、生徒による授業評価の集計結果をもとに各教科で授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組める「魅力ある授業」づくりを目指す。そのため、教科会や教材研究のための時間確保にも留意する。
豊かな心	TPOに応じた行動や挨拶を大事にしなから、できることをやろうとする姿勢が常にあり、集団や個人に貢献しようとする生徒を育成する。	道徳の授業で生徒が共感できる魅力的な教材を活用したり、体験活動を通して自他の生命や人権の尊重、規律ある生活、自己の将来、きまりの意義などの理解を深めていくようにする。また、TPOに応じた行動がとれるようにすること、社会に貢献する意識を高めることを目指し、道徳の教材や学級の指導に努めていく。
健やかな体	心と体を一体ととらえ、授業や行事、部活動等を通して運動に親しむ生徒を育成する。また、自ら危険を回避することができる能力の育成を図る。	自分の興味関心に従い、学校内外の活動に積極的に参加したり、授業や行事、部活動等を通して運動に親しむことができる生徒を育てる。また、自らの健康管理やけがの防止、安全防災についても意識を高めることを目指す。
特別支援教育	個々の特性に応じた指導ができるよう、生徒の状況について、全教職員が共通理解し、すべての生徒が安心して生活できるようにする。	特別支援教育委員会の機能を生かし、全職員が課題のある生徒への理解を深める。個別の指導計画を活用し、個に応じた指導ができるようにする。また、校内チェックリストを活用して、不登校状況や特別支援教室での学習支援、SCとの連携、他機関との連携などの状況を共通理解できるようにする。
児童・生徒指導	自他の人権を尊重できる生徒を育成するとともに、生徒理解に努め、信頼関係に基づいた人間関係を醸成する。また、保護者・地域との連携協力に努める。	「共感」の気持ちで大事にして生徒や保護者の対応において聞くことを重視する。生徒一人ひとりに寄り添い、「誉める」「認める」ことに心がけ、生徒の自己肯定感、自己有用感の向上に努める。また他者を理解し、助け合う精神を育む。
キャリア教育	3年間を計画的に指導することで、好ましい職業観を身に付けるとともに自己の「生き方」について考えることができるようにする。	朝総合、職業・進路学習、平和学習、校外学習をメインに、3年間の継続性を持って探究的な学習に取り組ませる。課題設定・問題解決能力や資質を育成し、学び方やものの考え方を身につけさせる指導を行う。その学びを生かして、さらに多面的に自己の生き方を考えることができるように、学活・道徳・各教科との横断的で総合的な学習も取り入れる。
地域連携	ボランティアなどを通して、地域社会に貢献できる生徒を育成する。また、地域・保護者との協働を進め、地域に見守られる学校づくりを進める。	学校だより等を通じ、学校の様子を保護者・地域に発信し、同じ目線に立って話ができるような場を増やす。地域のボランティア活動への参加者をさらに増やすために、PR活動を積極的に進める。また、ボランティア活動を通じ、地域貢献の意識を高める。
人材育成・組織運営	様々な場面で意識したOJTが行われ、チームとして個々の実践力を高める。また、全ての教職員がライフ・ワークバランスを意識した業務改善を図る。	メンターチームを組織すると共に、報告・連絡・相談を日常化し、日々の職務の中での助言・指導を適宜行うことで若手の育成に努める。また学校の現状をしっかりと分析し、既存の職員組織の定期的な評価と見直し・改善に努める。職員室業務アシスタントの導入により各教職員の業務負担の30%削減を目指す。
いじめへの対応	生徒一人ひとりが「安心して」「豊かに」生活できる環境をつくる。また、全ての生徒の「授業を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事場面で活用する。生徒一人ひとりの状況について把握するように努め、「いじめ基本方針」をもとに、校長をリーダーに担任や各学年教諭、生徒指導専任教諭、生徒指導部からなるチームの支援を進める。